

第15号

ひたちなか市文化協会会報「白亜紀」

20周年記念特別号

白亜紀



ひたちなか市文化協会

題字

白亜紀

河野 秋月

由来

砂岩とシルト岩が互層を呈する7千5百万年前の中生代白亜紀の地層。白亜紀の岩に波の碎けるさまは悠久の命を感じさせる。文化芸術を創造し、享受し、文化的な環境の中で生きる喜びを見いだすことは、人々の変わらない願いである。人生は短く、芸術は永し、ひたちなか市文化協会の目指すものは悠久の芸術そのものである。

写真と文

「白亜紀層」

橋本 良夫

平磯から磯崎にいたる海岸線には、東に30から40度傾斜した岩礁が連続し、これらは「那珂層群」と総称されている。約7千5百万年前の中生白亜紀に棲息していたアンモナイトが地層から発見された。

ここ鬼の洗濯板のような岩礁を一番ダイナミックに捕えるには、波が荒くなるべく岩肌が多く露出した干潮時。しかも真っ青な海を背景にもくもくと湧きあがる積乱雲が発生する夏。そんな時間帯を見計らって何度か撮影に出かけたら、運良く沖合から常陸那珂港へ向かって大きなコンテナ船がぐんぐん迫って来た。

目次

会長あいさつ				
20周年を記念して	文化協会会長	初見	宗郷	1
20周年を祝う				
祝辞	ひたちなか市長	本間	源基	2
祝辞	ひたちなか市教育委員会教育長	木下	正善	2
節目は飛躍の年	文化協会顧問	仲田	昭	3
20周年を祝して	文化協会前会長	横	和美	3
文化協会歴代役員名簿				4
文化協会のあゆみ(年表)				5
平成28年度活動報告				
総会				7
芸術祭				7
活動報告				7
春の祭典				8
一日体験教室				11
各団体から20周年に寄せて				
美術部門				
美術協会				13
書道連盟				14
陶芸協会				15
写真家協会				16

音楽部門				
合唱連盟				17
市民吹奏楽団				18
市民オーケストラ				19
Bトレインジャズオーケストラ				20
舞踊部門				
舞踊連盟				21
洋舞踊協会				22
伝統芸能部門				
邦楽連盟				23
吟詠剣詩舞連盟				24
民謡民舞連合会				25
伝統文化連盟				26
華道・茶道部門				
華道連合会				27
茶道連合会				28
文学部門				
俳句連盟				29
棋道部門				
囲碁連盟				30
文化協会組織図				31
編集後記				31



20周年を記念して

ひたちなか市文化協会
会長 初見 宗郷

ひたちなか市文化協会は、平成8年8月に、旧勝田市と那珂湊市の文化協会が統合し、新たにひたちなか市文化協会として設立され、本年は、20周年にあたります。統合前後の加盟団体や所属会員の設立に向けた情熱には偉大なものを感じます。また、これを受けてこれまで文化協会の活動を継続・発展してこられた方々に敬意を表するとともに、深く感謝申し上げます。その記念すべき節目の年に、五代目の会長職に就任致しましたことは、20年の永きに渡る業績を考え、真に身の引き締まる思いでございます。この度、20周年記念誌を発行することになりましたので、これまでの歴史と今後の展開について記していきます。

文化協会の大きな行事として、秋の芸術祭がございます。加盟18団体の市の総力を挙げて、市民の皆様方と共にそれぞれの団体が日ごろの成果を発表する文化の祭典であります。協会事業としての春の祭典は、文化協会の10周年記念行事として、平成19年3月に開催され、その後毎年の事業として開催されています。分野別構成団体が一堂に会し、それぞれの団体の特色を生かした発表は、他の地域では余り例がなく、他の地域の参考になっています。また、他分野との交流と相互理解を深めることができ、文化協会の質を一段と向上させています。

この他、協会事業として、研修会の開催があります。研修会の開催は、これまで、姉妹都市の那須塩原市（旧黒磯市）、石巻市をはじめ、前橋市、調布市などの文化協会との交流を図ってまいりました。他の文化団体との交流は、会員にとって、次への展開に拍車がかかる刺激剤になっていると思われれます。

その他、これらの活動を伝える会報（白亜紀）を年1回、平成14年度より発行しています。このように、ひたちなか市民の皆様と一緒に文化活動を続けていくことに努力してまいりました。

今後、これまでに培われてきたひたちなか市の豊かな伝統文化を継承し、更なる高まりと広がり、そして未来の文化の創造を目指して、市民に親しまれる文化協会にしていきたいと考えております。

そのためには、次の3点が重要かと思えます。

第1点は、会員数の増加です。年々、会員数が減少していますので、各分野での会員増員とともに、新しい団体の加入による会員の増加も重要であります。他の未加入の団体には、文化協会所属の利点などを紹介して積極的に勧誘していきたいと思えます。

第2点は、会員の更なるレベルアップです。会員の多くは、趣味を越えた技能や技量を持ち、その分野では卓越した人々であります。更に、団体の交流を通して、お互いがより刺激し合い、それぞれの感性を磨き高めることができれば、協会としての意義も高まるのではないのでしょうか。

第3点は、若い人への文化の継承です。会員の高齢化が進む中で、若い会員を増やしていくことが重要であります。そのためには、文化協会として子供たち向けの事業を展開し、次世代継承の礎を築かねばなりません。今年度計画しました『一日体験教室』は、楽しく学ぼう芸術文化をモットーに書道・篆刻・絵画・陶芸・箏・尺八・三味線・生け花・タップダンス・民謡・日本舞踊を子供から大人まで体験できる事業となっております。この事業が発端となつて、幅広く事業を展開できればと願っています。

ひたちなか市は歴史と文化の街であるとともに新しい感覚を取り入れやすい工業都市です。文化活動を幅広く行う上で大変好ましい環境が整っています。また、社会経済の進展に伴い、物の豊かさから心の豊かさが重要視される傾向が顕著となる中で、とりわけ文化の果たす役割は大きなものがあります。これから10年、20年先を見据えた未来像を描き皆さんと共に一歩一歩焦らず歩んでいきたいと考えております。



祝 辞

ひたちなか市長 本間 源基

この度、ひたちなか市文化協会が創立20周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

ひたちなか市文化協会は、平成8年に旧勝田市と旧那珂湊市の両文化協会を統合して設立され、これを契機としまして、「ひたちなか市芸術祭」が市と文化協会との共催により毎年開催されております。さらに、

創立10周年の平成18年には、文化協会の各分野が一堂に会する総合発表会「春の祭典」をスタートされるなど、本市の芸術文化の振興と発展に多大な貢献をされております。これもひとえに、初見会長をはじめとする歴代会長、会員の皆様方のご尽力の賜物であると深く敬意と感謝の意を表する次第であります。

さて、芸術文化活動は、人々に感動や喜びを与えるとともに、心豊かで温かい人間性の涵養や創造力の増進に寄与するものであります。

市では、次世代を担う子どもたち

の豊かな感性を育むことを目的に、優れた芸術に接することのできる芸術鑑賞会を毎年実施しているほか、ふるさとを愛する心を育てるため、

学校における「伝統文化継承事業」や「子ども伝統文化フェスティバル」の開催などに取り組みながら、文化の薫り高いまちづくりを進めているところ です。



祝 辞

ひたちなか市教育委員会
委員長 木下 正善

この度、ひたちなか市文化協会が創立20周年を迎えられますことを心からお祝い申し上げます。

文化協会の皆様には、本市教育行政の推進にご協力を頂いておりますことに厚く御礼申し上げます。文化芸術の振興に日々ご尽力されている姿には、誠に頭の下がる思いであります。

今後とも、生活に活気と潤いをもたらす芸術文化活動の輪を広げ、将来にわたり継承していくうえで、文化協会の果たす役割は益々大きくなっていくものと思われま す。皆様には、引き続きその中心となつてご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、ひたちなか市文化協会のさらなるご発展と会員の皆様方の一層のご活躍、ご健勝を心より祈念申し上げます。お祝いのご挨拶とさせていただきます。

日ごろ味わえない感動や刺激を体験することは、子供たちの豊かな人間性と創造性を育む絶好の機会でありま す。さらに文化芸術活動への参加は、自己の感性を磨き、他者との共感を培うことによつて、自己形成やコミュニケーション能力の向上に寄与するものと考えております。

文化協会の皆様には、日頃から地域や学校で文化芸術活動のご指導を頂いております。また、本年度は、貴協会の創立20周年という節目を契機として「一日体験教室」を開催されたとのこと です。地域で活躍する文化協会の皆様方から、日頃の生活や学校の授業などでは学ぶことのできない芸術分野について直接ご指導

この20年間、私たちを取り巻く環境は、少子高齢化や高度情報化など、新たな課題を抱えながら急速に変化しております。このような状況の中で、教育委員会では「知性と豊かな人間性を備えた 心身ともにたくましい子ども」の育成を目指し教育の充実に取り組んでおります。子供たちが本物の文化活動や芸術作品に触れ、

大きな喜びとなり、ひいては本市の教育と文化芸術の発展につながるものであります。今後とも各分野においてご活躍され、文化芸術の輪を広げていただきますよう、ご期待申し上げます。

結びに、文化協会と会員の皆様の益々の飛躍と発展を心よりご祈念申し上げます。お祝いの言葉にかえさせていただきます。



節目は飛躍の年

ひたちなか市文化協会

顧問 仲田 昭

ひたちなか市文化協会は、新生ひたちなか市の誕生から約2年後の平成8年8月に統一発足しました。その2年後に、ひたちなか市写真家協会の加入が認められ、私は、理事として参加させて頂きました。

当時は、旧那珂湊市と旧勝田市の文化団体の違いが散見され、初代会長の統率のご苦労が忍ばれます。

平成14年度になると、会の運営も安定して、初代会長の念願だった会報「白亜紀」が発行されました。私は、編集委員長として、パソコンで表紙デザインからページ割り付けまで、デジタルデータ化し、編集作業を効率化することが出来ました。その後、事務方が引き継いで、現在の会報編集の基本になっていることを嬉しく思います。

平成18年度から第三代会長に選任されると同年に、創立10周年を迎えることになりました。理事会で記念事業の検討を重ね、加盟団体の1年

間の活動の成果を発表しあう芸術祭総合発表会を企画し、「春の祭典」として第1回を開催しました。

当初はPR不足で、参観者の確保に苦労しました。回を重ねる毎に、一般市民に浸透し、今年で第11回を迎えるまでに定着しました。団体各位の熱意と一般市民のご理解によるものと感謝申し上げます。



20周年を祝して

ひたちなか市文化協会

前会長 楨 和美

この度、「ひたちなか市文化協会」が20周年を迎えられました事、おめでとうございます。

旧勝田市と旧那珂湊市が合併して、ひたちなか市になったのが平成6年の年で、それから2年遅れて平成8年に勝田地区と那珂湊地区の文化協会が合併して「ひたちなか市文化協会」となりました。まさに平成28年

各団体の活動は、単なる趣味・娯楽の域にとどまらず、ときには、悩み、もがき、苦しみを伴い、芸の道を究めようとする芸術文化集団の性格が強く、中央で活躍する芸術家も多く擁するのも特徴です。

さて、協会を取り巻く環境は、大きく変わろうとしております。その一つに、各団体の所属会員数の減少傾向があると思います。

その中で、協会の特徴を活かしつつ、どう取り組むか、五代目新会長の下に英知を結集し、今年を、一歩踏み出す飛躍の年にしたいものです。

ひたちなか市文化協会は統合してから20年が過ぎた事になります。今、思い返してみますと、初代の

日下部会長は両市の合併に伴い「勝田市文化協会」と「那珂湊市文化協会」を一本化することに尽力され、当時の文化課の職員も含めて、大変な時期を過ごして来られたと思っております。また、日下部会長の念願で

あつた会報「白亜紀」を創刊することもでき、「ひたちなか市文化協会」の枠組みを作って下さいました。その後、渡邊会長、仲田会長、そして私と続きましたが、日下部会長が「文化協会」の内の部分を整えたとすると、その後は、広く市民に知ってもらおう活動、つまり外へ向かって広めていく方向へ進んでいるように思われます。

最近、新聞やテレビ等で日本の人口に関して、高齢者が増加している話を耳にする機会が多くなってきています。文化協会も会員の高齢化や加入団体が増えない事等、課題はいろいろとあります。今後ますます市民に向かって文化協会の活動を知ってもらう事が重要になってくるのではないだろうかと思えます。それに合わせたように今年度から初見会長を中心にして、「一体験教室」という事業も始まり、何かワクワクするような気がします。

結びとしまして、20周年を迎えた「ひたちなか市文化協会」が市の芸術・文化のリーダーとして、また市民の生涯学習の要として発展していきます事を心より願い、お祝いの言葉と致します。

文化協会歴代役員名簿

平成8年8月～10年3月

顧問 堀川 東愛(短歌)
 会長 日下部清道(書道)
 副会長 水野 和夫(陶芸)
(勝田地区会長)

湯浅 高明(吟詠)
(那珂湊地区会長)

勝田地区 鴨志田孝夫(民謡)
 副会長 大和田清月(華道)
那珂湊地区 黒澤 誠(陶芸)
 副会長 雨宮 珠草(華道)
 監事 西野 宗博(茶道)
 木内 子悦(俚謡)

平成10年4月～12年3月

顧問 堀川 東愛(短歌)
 会長 日下部清道(書道)
 副会長 大和田清月(華道)
 水野 和夫(陶芸)
(平成10年度まで)

鴨志田孝夫(民謡)
(平成11年度から)

監事 柏倉 豊(民謡)
 木田 茂子(俳句)

平成12年4月～14年3月

顧問 堀川 東愛(短歌)
 会長 日下部清道(書道)
 副会長 大和田清月(華道)
 鴨志田孝夫(民謡)

監事 柏倉 豊(民謡)
 木田 茂子(俳句)

平成14年4月～16年3月

顧問 堀川 東愛(短歌)
 会長 日下部清道(書道)
(平成15年12月27日まで)

副会長 大和田清月(華道)
 渡邊 妥夫(川柳)
 石崎聡一郎(吹奏楽)
 黒澤 敏男(囲碁)

平成16年4月～18年3月

顧問 堀川 東愛(短歌)
 会長 渡邊 妥夫(川柳)
 副会長 大和田清月(華道)
 黒澤 誠(陶芸)
(平成16年度まで)

仲田 昭(写真)
(平成17年度から)

監事 加藤 勝英(オーケストラ)
 石崎 正(将棋)

平成18年4月～20年3月

顧問 堀川 東愛(短歌)
(平成18年度まで)
 会長 仲田 昭(写真)
 副会長 大和田清月(華道)

監事 榎 和美(合唱)
 三好 義章(美術)
 若柳 恵吾(舞踊)

平成20年4月～22年3月

会長 仲田 昭(写真)
 副会長 榎 和美(合唱)
 竹内 章(吟詠)

監事 長山 素龍(書道)
 及川英美子(洋舞踊)

平成22年4月～24年3月

顧問 仲田 昭(写真)
 会長 榎 和美(合唱)
 副会長 初見 宗郷(邦楽)
 平野 伸生(写真)

監事 渡辺 祥子(陶芸)
 根本玉登恵(邦楽)

平成24年4月～26年3月

顧問 仲田 昭(写真)
 会長 榎 和美(合唱)
 副会長 初見 宗郷(邦楽)
 平野 伸生(写真)

監事 日座 彬人(写真)
 島田 悟郎(吟詠)

平成26年4月～28年3月

顧問 仲田 昭(写真)
 会長 榎 和美(合唱)
 副会長 初見 宗郷(邦楽)
 平野 伸生(写真)

監事 曾我部富代(合唱)
 高橋 和彌(民謡)


平成28年4月～

顧問 仲田 昭(写真)
 会長 初見 宗郷(邦楽)
 副会長 川又 浄範(吹奏楽)
 杉山 豊和(華道)

監事 前多 春樹(Bトレイン)
 小林 章男(伝統文化)

文化協会のあゆみ（年表）

年	文化協会の活動
昭和26年	「那珂湊文化連盟」発足（俳句同好会・磯短歌クラブ・生け花クラブが参加）
昭和27年	第1回那珂湊町文化祭開催、以後毎年開催
昭和28年	「那珂湊町文化連盟」設立
昭和29年	那珂湊市市政施行（3/31）に伴い「那珂湊市文化連盟」に改称 勝田市市政施行（11/29）
昭和50年	第1回勝田市芸術祭開催（松戸体育館他）以後毎年開催 第24回那珂湊市文化祭開催（文化連盟9団体と児童生徒作品展を同時開催）
昭和56年	「勝田市文化協会」設立（美術協会・書道連盟・写真連盟・陶芸協会・民謡会・俳句連盟・詩吟剣詩舞連盟・バレエ協会・合唱連盟・邦楽舞踊連盟の10団体）
昭和58年	第1回文化講演会（勝田市）開催、以後毎年開催
昭和59年	勝田市文化会館（現ひたちなか市文化会館）が落成
昭和60年	「勝田フィルハーモニック（平成8年に市民オーケストラに改称）」「市民吹奏楽団」が市民憲章から勝田市文化協会へ編入、また、「邦楽舞踊連盟」が邦楽と舞踊に分離、「少年少女合唱団」が加盟し14団体（勝田市文化協会）となる
昭和61年	「華道連合会」「茶道連合会」が加入し16団体（勝田市文化協会）となる
平成4年	「那珂湊市文化連盟」を「那珂湊市文化協会」に改称する
平成5年	調布市文化協会（5/12 勝田市）、佐野市文化協会（2/12 勝田市）と研修交流会を実施
平成6年	勝田市と那珂湊市が合併し『ひたちなか市』となる（11/1） 両地区の正副会長会議を開催（両地区文化協会の現況について）

年	文化協会の活動
平成6年	保谷市文化協会（4/25 勝田市）、川越市文化団体連合会との研修交流会を実施（1/20 川越市）
平成7年	第19回勝田市・第43回那珂湊市文化祭開催 第1回総合準備委員会開催（勝田地区6名・那珂湊地区6名）以後年度内に5回開催（規約・役員選出・団体加入要件・芸術祭の開催方法・分野の整理と団体統合等）
平成8年	ひたちなか市芸術祭開催（勝田地区と那珂湊地区とで実施） 勝田地区文化協会総会（6/29 ワークプラザ勝田 15団体） 那珂湊地区文化協会総会（7/4 那珂湊公民館 13団体） ひたちなか市文化協会設立総会（8/8 堀口クラブ）開催 第1回ひたちなか市芸術祭開催（10/15〜2月 勝田地区と那珂湊地区とで実施）
<p>— 市報掲載 — 平成8年9月10日号より</p>	
<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;">  <p style="font-size: small; margin-left: -40px; margin-top: 10px;">役員の就任あいさつ</p> </div> <div style="flex: 2; padding-left: 10px;"> <h3 style="text-align: center;">芸術文化の振興 市文化協会が設立</h3> <p>市の文化振興と市民の芸術文化の向上に寄与しようと「ひたちなか市文化協会」の設立総会が8月8日、かつた堀口クラブで清水昇市長や関係者ら約100人が出席して開かれました。</p> <p>同協会は、勝田・那珂湊の両文化協会が統合したもので、民謡、華道、絵画、合唱、オーケストラなど、勝田地区・那珂湊地区合わせて16種28団体が加盟、会員数約3,700人です。</p> <p>総会では、規約など原案通り議決したあと、協会役員28人を選出。初代会長には書道の日下部清道が、副会長には陶芸の水野和夫氏と剣舞の湯浅高明氏がそれぞれ就任しました。</p> <p>本年度の主な事業として、市芸術祭や文化講演会などが予定されています。</p> </div> </div>	

文化協会のあゆみ（年表）

年	文化協会の活動	年	文化協会の活動
平成9年	<p>勝田地区、那珂湊地区の同種団体による統合調整事務（絵画・書道・陶芸・詩吟・華道・茶道部門）統合調整後、部門ごとに設立総会を実施（平成9年4/22～平成10年5/17）</p> <p>「那珂湊よい映画を見る会」が退会、「写真家協会」「観世華の会」が加盟し22団体となる</p> <p>姉妹都市黒磯市文化協会との文化交流会を実施（10/1～2黒磯市）</p> <p>文化協会会報「白亜紀」創刊号発行</p> <p>「謡曲華の会」「湊ダンス愛好会」が退会し20団体となる</p> <p>協会創立10周年を迎え、文化講演会（昭和58年）の代わりに、記念事業として加盟団体が一堂に会した「梅香る春の祭典」を開催、以後「春の祭典」として毎年開催</p>	平成19年	<p>「伝統文化連盟」が加盟し21団体となる</p> <p>「少年少女合唱団」が退会、「Bトレインジャズオーケストラ」が加盟し21団体となる</p> <p>「美名都吟社」が退会し20団体となる</p> <p>平成23年3月11日に「東日本大震災」発生、ひたちなか市は震度6弱。震災の影響で、事業を中止あるいは延期・縮小した団体もある（22～23年度の事業）</p> <p>「将棋連盟」が退会し19団体となる</p> <p>前橋市文化協会「創立30周年記念のつどい」を鑑賞（3/4前橋市）</p> <p>調布市文化協会との研修交流会を実施（3/2調布市）</p> <p>姉妹都市石巻市文化協会との文化交流会を実施（3/14～15石巻市）</p> <p>「川柳会」が退会し18団体となる</p> <p>協会事務局が市教育委員会総務課から市生涯学習課へ移管</p> <p>ひたちなか市誕生20周年記念事業で「教育文化功労」授賞</p> <p>第10回記念「春の祭典」はゲストに「来舞・デュオ」を迎え開催</p> <p>姉妹都市那須塩原市文化協会黒磯支部との文化交流会を実施（2/26那須塩原市）</p> <p>協会創立20周年を迎え、会報「20周年記念特別号」を刊行、また、「一日体験教室」を開催</p>
平成10年	<p>「那珂湊よい映画を見る会」が退会、「写真家協会」「観世華の会」が加盟し22団体となる</p>	平成20年	
平成13年	<p>姉妹都市黒磯市文化協会との文化交流会を実施（10/1～2黒磯市）</p>	平成22年	
平成14年	<p>文化協会会報「白亜紀」創刊号発行</p>	平成23年	
平成18年	<p>「謡曲華の会」「湊ダンス愛好会」が退会し20団体となる</p>	平成24年	
	<p>協会創立10周年を迎え、文化講演会（昭和58年）の代わりに、記念事業として加盟団体が一堂に会した「梅香る春の祭典」を開催、以後「春の祭典」として毎年開催</p>	平成25年	
	<p>10周年記念事業「梅香る春の祭典」</p>	平成26年	
 <p>ひたちなか市文化協会10周年記念「梅香る春の祭典」記念式典 仲田会長挨拶 平成19年3月24日(土) しあわせプラザ</p> <p>記念式典で挨拶の仲田会長</p>	 <p>書道連盟・華道連合会・吟詠剣詩舞連盟のコラボレーション</p>	平成27年	
	 <p>写真家協会・俳句連盟・美名都吟社のコラボレーション</p>	平成28年	

総 会

平成28年度 ひたちなか市文化協会総会

日 時 28年5月27日(金)
午前10時30分から
会 場 クリスタルパレス長寿荘
出席者 50人
委任状 19人(構成員 69人)
議 長 大野 八洲男(陶芸協会)
司 会 中野 権郎(吟詠剣詩舞連盟)

総会は、吟詠剣詩舞連盟の中野氏の司会進行で開催され、榎会長の挨拶から始まり、来賓を代表して本間源基市長及び打越浩市議会議長よりご祝辞をいただきました。
議長に陶芸協会の大野氏が選出され議事に入り、27年度事業実績、収支決算および決算監査の報告があり、それぞれ承認されました。
議案の28年度事業計画、収支予算、および理事の承認については、原案通り承認されました。
役員改選では、理事会において選出された会長及び副会長案が満場一致で承認されました。

文化協会新役員

顧問 仲田 昭 (写真家協会)
会長 初見 宗郷 (邦楽連盟)
副会長 川又 浄範 (市民吹奏楽団)
杉山 豊和 (華道連合会)
前多 春樹 (Bトレイン)
小林 章男 (伝統文化連盟)

創立20周年を迎えた節目の年、新たな役員体制でスタートします。

議事終了後、アトラクションとして吟詠剣詩舞連盟の皆様による演技が披露され、和やかに交流が図られ閉会しました。



「吟詠剣詩舞連盟」の皆様による アトラクションの様子

芸術祭

平成28年度 日程

- 9月18～19日 いけばな展
- 9月27日 美術展覧会(書道・写真)
- 9月27日 美術展覧会(書道・写真)
- 10月2日 市民オーケストラ第35回定期演奏会
- 10月9日 日本舞踊公演&チャリティー舞踊まつり
- 10月10～16日 美術展覧会(絵画・彫刻・陶芸)
- 10月16日 吟詠剣詩舞大会第47回勝田支部
- 10月26～30日 児童生徒作品展
- 10月27～28日 市内小中学校音楽会
- 11月3日 第46回民謡民舞秋まつり
- 11月6日 茶道連合会茶会
- 11月20日 第36回邦楽連盟三曲演奏会
- 11月20日 俳句大会
- 11月27日 ふるさとの伝統芸術文化鑑賞会
- 12月4日 合唱祭
- 12月11日 バレエ&ジャズダンスフェスティバル
- 12月18日 市民吹奏楽団第32回定期演奏会
- 12月25日 Bトレイン24周年コンサート
- 1月22日 第7回子ども伝統文化フェスティバル
- 1月22日 市民囲碁大会
- 2月12日 文化協会総合発表会
「第11回春の祭典」

平成28年度 活動報告

- 4月15日 ・理事会
生涯学習センター
- 4月28日 ・会計監査
生涯学習センター
- 5月13日 ・理事会
生涯学習センター
- 5月27日 ・28年度総会・懇親会
クリスタルパレス
- 7月15日 ・理事会
生涯学習センター
- 9月29日 ・編集委員会
生涯学習センター
- 9月3日 生涯学習センター
- 9月18日 ・芸術祭開催
- 9月18日 市文化会館他
- 10月7日 ・理事会
生涯学習センター
- 1月13日 ・理事会・舞台部門会議
市文化会館
- 2月12日 ・春の祭典
市文化会館
- 3月26日 ・一日体験教室
市文化会館

平成29年2月12日(日) ひたちなか市文化会館 10時開場

※開始時間は予定の時間です。

舞台部門プログラム(大ホール)

市民吹奏楽団	10:30~	「恋」ジャニーズグラフィティ19 サ・ドリフターズメドレー
市民オーケストラ	10:50~	「真田丸メインテーマ」「ガールズ&パンツァーより」
合唱連盟	11:10~	「切手のないおくもの」「見上げてごらん夜の星を」(心に花を咲かせよう)
邦楽連盟	11:30~	享曲「戀戀之舞(シルクロード)」
Bトレインジャズオーケストラ	11:50~	「ユー・ソー・ナイス」「ムラドゥ・セーネー」「ザ・ワイルド・サム」「スイングス・オブ・スタンディング」
休憩	12:10~	
主催者あいさつ	13:10~	
伝統文化連盟	13:20~	NHK朝ドラテーマ曲メドレー
幼少劇舞連盟	13:40~	春風にあふ「後の星」「江家の夢」「九段の桜」「地初」「真鶴篇を聞く地
舞踊連盟	14:00~	日本舞踊「雪月花」より「雪おんな」「影絵」「花あそび」「霞さくら」
洋舞踊協会	14:20~	フダンズ&タヒチアンダンス
民謡民舞連盟	14:40~	民謡民舞「龍舟」「龍舟舞」「龍舟舞」「龍舟舞」
茶道連盟	15:00~	表千家「立礼席」

展示部門(大ホールホワイエ) 10:00~16:00

文化会館内図

問い合わせ先
 ◆ひたちなか市文化協会事務局
 (ひたちなか市市民生活部 生涯学習課 芸術文化課内)
 〒312-0045 ひたちなか市藤原中央4-9 (生涯学習センター内)
 TEL 029-272 6301 FAX 029-272 9297

ひたちなか市芸術祭
 文化協会総合発表会 第11回

春の祭典

舞台部門

- 市民吹奏楽団
- 市民オーケストラ
- 合唱連盟
- 邦楽連盟
- Bトレインジャズオーケストラ
- 伝統文化連盟
- 吟詠劇舞連盟
- 舞踊連盟
- 洋舞踊協会
- 茶道連盟
- 民謡民舞連盟

展示部門

- 美術協会
- 書道連盟
- 陶芸協会
- 写真家協会
- 華道連盟
- 俳句連盟
- 園藝連盟

2017 **2/12** 日(日) 10:30 開演(10:00 開場)
 ひたちなか市文化会館 大ホール・ホワイエ **入場無料**

主催：ひたちなか市・ひたちなか市文化協会

第11回 **春の祭典**

市文化協会の総合発表会「春の祭典」が、2月12日、市文化会館において華やかに開催されました。一日で幅広いジャンルの芸術文化に触れることができる催しで、これを機に、多くの人が興味を持ち、参加していただければ幸いです。

【 展 示 部 門 の 様 子 】



【 舞 台 部 門 の 様 子 】



市民吹奏楽団



市民オーケストラ



合唱連盟



邦楽連盟



Bトレイン



伝統文化連盟



吟詠剣詩舞連盟



舞踊連盟



洋舞踊協会



民謡民舞連合会



茶道連合会

楽しく学ぼう芸術文化

一日体験教室

3月26日(日)、市文化会館において『一日体験教室』を開催しました。

これは、市文化協会創立20周年を記念し、芸術文化の振興と協会会員の増加を目的に、一日で様々なジャンルの芸術文化を体験してもらおうと開催したものです。

協会としては初めての試みでしたが、すべての会場において多くの参加者が集まり、盛大に開催出来ました。特に、参加者の半分以上が子供であったことは、非常に有意義であったと思います。

これを機に、多くの市民が協会加盟団体の教室等に参加し、芸術文化に取り組んでいただければ幸いです。

【参加者アンケートより】

- ・丁寧な指導していただいて、楽しくできました。
- ・輝く子供の目、非常に良い催しだったと思います。
- ・また参加したい。
- ・子供達に体験させて良かった。



陶芸



陶芸



絵画



書道(甲骨文)



絵画



書道(篆刻)



タップダンス



タップダンス

民謡(太鼓)



伝統文化(箏)



民謡(三味線)



◀ いけばな

いけばな



伝統文化(大正琴)



邦楽(箏)



邦楽(尺八)



日本舞踊



日本舞踊



美術協会



文化協会20周年を迎えて

美術協会会長

三好 義章

文化協会は、20

周年を迎えますが、

活動内容としては、人物スケッチ

や宿泊を伴う県外での写生研修、美

協展、市芸術祭への協力、春の祭典

当時の会長は、勝田は深谷昭一郎氏、

への出品があげられます。

那珂湊は磯崎秀光氏でした。合併す

当会員の作品は、県内外でも高く

の評価されており、素晴らしいことと

の面から時間をかけ調整しました。

思います。今後行事の精選充実を

特に勝田市には市外在住中の会員

図り、会員相互の研修交流を密にし

がたくさんおられ、素晴らしい活躍

ていきたいと考えています。また3

年後の記念展を通し先輩諸氏の功績

を讃え、これからの発展につなげて

いきたいと思えます。

い

い

い

い

い

い

い

美協の歴史は実に長く、研修スケッチ旅行も
参加者の理解と協力により有意義で本当に楽し
いものでした。
犬吠埼、磐梯、那須、日光、軽井沢等々で、
写真は磐梯の時のものです。故深谷先生の元氣
なお姿も見られます。宿近くの湖畔にイーゼル
を立てて、深谷先生を始め皆で絵筆を駆使した
ことなど忘れられない思い出です。会長として
の先生、またお人柄も懐かしく偲ばれます。今
後もスケッチ会の益々の充実を期待します。

研修スケッチ旅行の益々の充実を

会員 宮本 昭一郎



平成18年「裏磐梯にて」

有意義な人物研修会

会員 服部 和子

年2回の人物着衣研修会は20分描

いて10分休憩という繰り返しの中で、

モデルさんと向きあつて木炭や鉛筆

でデッサンする人、油絵具で自由に

自己表現する人、大作への参考作品

にする人等それぞれが真剣に集中し

て描いています。個人でモデルを依

頼することがなかなか大変なので、

この研修会は私達にとって有意義な

機会なのです。会員は万障繰り合わ

せて出来るだけ参加しています。



人物着衣研修会

美協展を通して

副会長 鎌田 道夫

美協は、3年後に20周年記念展を

開催致します。

那珂湊市、勝田市の美協は合併し

た後も、お互いの親睦を深めつつ研

鑽を積んで参りました。中央展入選

者、県美術展入賞者、同会員、会友

推挙者も増加し、同展審査員を務め

る会員も出るようになりました。

今後、市の文化向上に繋がる

の思いを胸に、制作に励む所存です。



平成27年

美協展より

本年度の行事と

文協発足20年の思い出

書道連盟会長 長山 素龍

一、本年度の行事

【第41回連盟展(4/27~5/2)】

昨年まで市文化会館で開催していたが、今年度は新しい試みとして展示場を勝田駅前前市民交流センターに変えて実施し、46名が出品した。鑑賞者が多く新しい経験ができた。

【市芸術祭美術展(9/27~10/2)】

今年は総出品数63点で昨年より17%増加した。これは特に毛筆と篆刻で新しいグループの出品があったのが要因であり、大変喜ばしい事であった。

【研修旅行(11/27)】

連盟としてははじめての県南への日帰り研修旅行となり26名が参加し、

①牛久大仏 ②予科練平和記念館

③土浦市立博物館を見学した。

①は台座を入れると120mの青銅製の立像で、世界一高い大仏としてギネスブックに登録されている。エレベーターが5階(85m)の高さまで行っており見晴らしは最高であった。②では今と変わらぬ少年達の



連盟展の様子



◀ 研修旅行「牛久大仏の前で」

青春群像を通して命の尊さと平和の大切さを痛切に感じた。③では土浦藩の学者・教育者として藩政改革を行なった藤森弘庵展を見学。掛軸、巻物、屏風、扁額などが多数飾られていた。 全体的に大変勉強になり和気藹々の良い研修旅行であった。

二、文化協会発足20年の思い出

平成8年に勝田と那珂湊の書道連盟が合併し、会員は現在の約2倍の141名で、勝田の日下部清道会長が初代会長となった。

主な活動は次の通り。

【書道連盟展】

書道文化の振興と高揚をはかり会員相互の友好を深め次代を担う青少年の健全育成を目的とし、一貫して市文化会館で開催した。当初の出品数は一般110点(現在の約2倍)学生は400点(現在の4倍)あり活気に満ちていた。平成27年には40

回記念展を市華道連合会と共催で実施。華やかな雰囲気が生れて好評を博した。

【席書大会】

市内小中学校29校の協力のもと、1回平均450名の参加を得て市松戸体育館で夏休みに実施した。

この大会は連盟合併前にも7回実施されており、平成16年終了までに15回開催した。参加生徒数は延べ600名、主催者側も毎回80名が参加した。暑い中で、体育館の床面一杯に広がり一生懸命書く生徒達の姿が今も脳裏に焼付いている、強く心に残る大会であった。



第40回記念展は華道連合会と共催で実施



席書大会の様子

陶芸協会

陶芸協会20余年間を振り返って

陶芸協会 渡辺 祥子

陶芸協会の20余年を10年間ずつに区切って振り返ってみます。

【第1部・平成4年から13年まで】

平成4年、勝田市陶芸協会創立15周年記念式典開催と記念誌「あゆみ」発行。

(1) 会員数の推移：15年前16名で創立、平成4年77名、12年120名

(2) 技術講習会：年間6回から8回開催。水野先生や会員、また陶芸家による講習会を実施。

(3) 美術展：市展、県展とも毎年10名以上入選、入賞者を輩出。

(4) 市主催事業への協力：年1回実施の市民参加の野焼には、昭和60

年から12年間参加。毎年夏に約100名の参加者に成形指導と野焼当日の作業全般を担当。笠間の原土を汗だくで



野焼き風景
(市埋蔵文化財調査センターにて)

粉砕、1回に約400キログラムの粘土を準備しました。会場は津田公民館や市下水処理場または市埋蔵文化財調査センターでした。

(5) 協会展：創立当初から平成8年まで作品展示形式で開催。平成9年(20回展)からは、作品展示と作品のチャリティー販売を開始。収益金の一部を市の「ふれあい基金」に寄附

(6) 研修旅行：年1回実施、東北関東甲信越地方の窯元を視察。

(7) 陶芸協会の名称変更：平成9年勝田市陶芸協会(105名)と那珂湊市陶芸研究会(30名)は合併により、ひたちなか市陶芸協会を設立。以後勝田市陶芸協会は、ひたちなか市勝田陶芸協会として活動。

(8) 陶芸協会音頭：元会員の松本克氏の作詞作曲で陶芸協会音頭が完成、後に踊りもでき新年会などで歌って踊りました。

【第2部・平成14年から23年まで】

平成15年、ひたちなか市勝田陶芸協会創立25周年記念式典開催と記念誌「あゆみ」を発行。

(1) 会員数の推移：平成14年109名、16年120名。

(2) 陶芸協会の名称変更：平成17年那珂湊陶芸研究会が閉会したため、ひたちなか市勝田陶芸協会は、ひたちなか市陶芸協会を継称。

(3) NHKわいわいスタジオにテレビ出演：平成18年から3年間、NHK水戸放送局において、6月または7月に5日間連続で毎日3名ずつ

自作品の披露と作陶過程等のインタビューを受け、緊張あり、心配ありで、応援の仲間共々良い経験が出来ました。

(4) 公民館使用料有料化：平成20年施設有料化に伴い、陶芸室の使用を月平均15日に制限し、作陶はグループ毎の活動となりました。

(5) 県展・全国展：県展の受賞、また会員や会友に推挙され、全国展にも入選者を出しました。

(6) 市主催事業への講師派遣状況：①津田公民館関係 ②社会福祉協議会関係 ③社会福祉法人北勝園関

係 ④ワークプラザ勝田 ⑤保育園幼稚園関係等です。

【第3部・平成24年から28年まで】

平成25年、陶芸協会創立35周年記念式典開催と記念誌「あゆみ」発行。

(1) 会員数の推移：平成24年95名、28年83名。

(2) 公民館運営移管に伴う対応：平成26年4月から陶芸協会は、生涯学習センターの利用団体として登録され、活動の拠点は、生涯学習センター津田陶芸室となりました。

今後とも、趣味にとどまらず、市主催事業への協力、福祉基金への寄附等社会参加活動を継続し、また会員の更なる技術の向上を図って参りたいと思っております。



自性寺焼き里秋窯での記念撮影

写真家協会

「事業報告」及び

「写真家協会誕生の経緯」

写真家協会会長 平野 伸生

【28年度事業報告】

当協会の事業は、5月14日総会と作品研究会が始まる。研究会は7月、8月、12月、2月に年5回実施した。9月27日～10月2日開催の市芸術祭（1期）は、特別出品26点、一般出品56点で、今年地域で学ぶ写真教室から多数の応募者があり、前年比5点増となった。特別審査委員には、県芸術祭写真部門委員の安博久先生を招聘して審査をお願いした。

平成21年以来続けている俳句連盟とのコラボは、句作入り写真126枚を2月の「春の祭典」、8月22日～29日市民交流センターでの「フォト五七五写真&俳句」で展示した。11月4日、紅葉狩りを兼ねた「足尾銅山跡とわたらせ渓谷鉄道沿線の撮影会」は、20名が参加して親睦を深めた。

27年度事業「第18回写真家協会展」は、3月6日～13日まで開催し、41名の会員が力作82点を出品した。

ギャラリートークの日、姉妹都市那須塩原市文化協会黒磯支部の佐川栄治副会長、大宮司和照氏、増子善英氏の表敬訪問を受けたことも記録に残したい。



ギャラリートーク開会式
右から佐川氏、大宮司氏、増子氏

【写真家協会誕生の経緯と草創期の活動】

平成6年11月1日、ひたちなか市が誕生した翌7年8月10日、両市文化協会の併合に向けて「統合準備委員会」が設置された。代表者間で諸問題が協議されたが、調整は紆余曲折したらしい。昭和56年8月27日設立以来勝田市文化協会10団体に加盟

していた「勝田市写真連盟」が協会から退くことになった。カメラが普及し従前にまして写真芸術への関心が高まるなか、市は美術団体に写真部門は不可欠と判断、急遽2つの写真団体関係者に設立を要望した。平成10年3月、市からの要請を受け「写真団体設立準備委員会」を設置した。発起人は「フォトクラブ写真心」井上薫、仲田昭、福田仁、谷井修一と「全日写真連勝田支部」篠塚ミノルの5氏である。限られた時間のなかで賛同者の募集から規約づくりに奔走した。4月11日、日立製作所厚生年金会館で賛同者33名が出席し総会が開かれ、「ひたちなか市写真家協会」が発足、会長仲田昭、副会長井上薫、顧問福田仁の3氏が就任した。間をおかず翌年2月、会員33名51点の作品を展示した「第1回写真家協会作品展」をジャスコ勝田店で開催した。翌11年には会員44名に増加、2月に開催した同所での写真展では作品数も56点に伸ばした。この年企画した事業が、撮影会、ライターワーク講習会、作品研究会の他、国営常陸海浜公園フォトパートナーなど地域に根差した活動である。

事業の大半は現在も継続している。平成14年3月、「第5回写真家協会展」に併せて「ひたちなか市写真家協会創立5周年記念式典」を文化会館で開催した。以来15年を経て当協会が20周年記念を迎えるのは、平成29年度に当たる。今日ある協会の礎は、既に草創期に確立したといえる。が、詳細なあゆみは、市域で写真に関わった先人、団体なども含め写真小史として「記念誌」に纏められたらと考えている。



第1回写真家協会作品展（ジャスコ勝田店にて）

合唱連盟

合唱祭から

合唱連盟の歩みを辿って

合唱連盟代表

榎 和美

昨年平成28年12月4日に「市合唱祭」は48回を迎えました。合唱祭が始まった頃（昭和44年頃）は、「勝田市合唱祭」という名称で、会場も文化会館がなかったので、東石川小学校の体育館・日製健保トレーニングセンターホール・市役所の大会議室・勝田市民総合体育館・勝田市商工会議所の5階ホール等を使用して開催していま

した。参加団体も少なく、4団体〜6団体の演奏から始まりました。昭和59年に勝田市文化会館が完成した事は、大きな出来事だったと想像することができません。反響板や山台



第9回勝田市合唱祭
昭和52年11月19日 勝田市役所大会議室にて

のある舞台の出現は、参加団体にとってコーラスをする自信や励みとなったことでしょう。この昭和59年には、合唱祭（12月9日）は文化会館で当然開催されましたが、合唱祭のみならず、茨城県芸術祭合唱演奏会も合唱祭の1週間前の12月2日に開かれていきます。また、3年前の昭和56年には「勝田市文化協会」も設立されました。

ここまでの合唱連盟の歩みとしては、「勝田市文化協会」の設立前の合唱祭（第1回勝田市合唱祭〜第12回勝田市合唱祭）。文化会館ができて、「勝田市文化協会」

に加入しての合唱祭（第13回勝田市合唱祭〜第25回勝田市合唱祭、第26回勝田市合唱祭、第27回ひたちなか市合唱祭）。2つの大きな流れの中で、活動してきました。次に「ひたちなか市文化協会」になってからの20年間に ついて書いていきます。

市文化協会」があつたため、それを統合するのに、苦勞されたと伺っています。両地区に1つずつあつた団体を1つにするには、何度も会議を重ねて、今の状態に近い形にまとめていったのだと思います。合唱祭のプログラムを見ても、平成6年第19回勝田市芸術祭参加・第26回勝田合唱祭・後援・ひたちなか市勝田地区文化協会、平成7年度芸術祭参加・ひたちなか市合唱祭・後援・ひたちなか市勝田地区文化協会、平成8年度芸術祭参加・ひたちなか市合唱祭・後援・ひたちなか市文化協会となつていて、当時の混沌とした状況が伝わってきます。統合時、合唱連盟は勝田市だけで、那珂湊市にはなかつたため、そのまま「ひたちなか市合唱連盟」となりました。私が平成9年に文化協会に入った頃は、混沌とした部分も終息に向かっていました。現在、合唱祭参加団体は20団体前後になり、合唱団のなかつた那珂湊地区からも2団体が合唱祭に参加しています。歌の好きな仲間達が、これからも増えていき、文化協会と共に10年・20年と続いていく事を期待しています。



昭和59年度茨城県芸術祭合唱演奏会 — 勝田市文化会館（1984.12.2）にて —
出演 1.合歓の会 2.勝田市男声合唱団 3.若竹会 4.勝田市民混声合唱団

市民吹奏楽団

活動紹介

市民吹奏楽団

事務局長 宮内 慶樹

文化協会創立20周年おめでとうございませう。

市民吹奏楽団は、1983年5月に、市文化協会などの温かいご支援とご協力により、勝田市民吹奏楽団として誕生しました。

当初は市文化会館のような音楽ホールがなく、東石川小学校の体育館にてコンサートを開催しておりました。

その後1984年には市文化会館が完成し、翌年12月には「第1回定期演奏会」を会館大ホールにて開催する事ができました。

それから31年の月日が経ち、2016年12月18日に「第32回定期演奏会」を市文化会館大ホールにて開催しました。

今回の第1部では「そりすべり」や「星に願いを」などを演奏、第2部は「指揮者体験コーナ」や「となりのトトロのメドレー」、「ドリフターズ・メドレー」を演奏し、子供から大人まで誰もが楽しめるステ

ジを企画しました。

第3部では、楽器や曲の指導などで伺っています「市立高野小学校吹奏楽部」の生徒の皆さんにゲスト出演して頂き、小学校の単独演奏と2団体の合同演奏を行い盛大に終演致しました。

またその他の活動は、4月のスプリングコンサート、8月の茨城県吹奏楽コンクール一般の部出場、水戸矯正展・生涯学習センター祭り・平磯コミュニティセンター祭り・西山荘秋祭り・結婚披露宴での演奏や、市内小学校への楽器指導、11月に開催されました茨城県内の吹奏楽団（20団体）が集まったの市民バンドフェスティバルにも参加し演奏してきました。

こうした活動は、市民の皆さんや同じ吹奏楽で活動している方との貴重な交流を深める場でもありますので、来年度も団の演奏会以外にも、依頼・慰問演奏や小学校への楽器指導なども継続して活動していきたいと思っております。

最後になりますが、ここまで活動を続けてこられたのも、市文化協会のご支援やご協力があったからだと思

思います。心より感謝申し上げます。これからも聴いて下さる皆様笑顔になる演奏や、市民の皆様にあされるバンドを目指して活動していきますので、市民吹奏楽団をよろしくお願ひします。



第56回 茨城県吹奏楽コンクール出場（8月）



第32回 定期演奏会より
高野小学校吹奏楽部のゲスト出演



市民オーケストラ

市民に愛されるということ

市民オーケストラ団長 榎田 眞

今年度の定期演奏会で35回を迎えました。オーケストラを維持するのはプロであつても経済的に難しいそうです。多くのアマチュアオーケストラも経済的な問題や運営方針の不一致などにより、結成されては解散していく短命な活動に終わることがしばしばだそうで、ましてや10万人規模の自治体（結成当時の勝田市）にアマチュアオーケストラが誕生すること自体、関係者には奇跡と捉えられているようです。

そのような境遇の中、35年も活動を続けられたことは、市の文化活動に対する理解と、市民の皆様のオーケストラに対するご支援、そして団員の熱い思いが消えることなく続いたからに他なりません。一時期、団員が減って、半分以上の演奏者をエキストラに頼らざるを得ない苦しい時期もありました。それでも頑張つて来られたのは、市民オーケストラが単なる同好の志の集まりではなく、市民のためのオーケストラであるべ

きだという創立当時の理念が揺るがなかったからだと思つています。

そうは言つても、それを具体的に実際の活動に反映するとなるといろいろと悩みもあります。「お客さんの集まる名曲ばかりやつていいのか？」「団員の順番が偏るプログラムでいいのか？」「費用が掛かり過ぎじゃないか？」毎回悩みは尽きません。

その中でほぼ一貫して行つていのは、地元出身のソリストを見つけ、共演していくということです。今まで35回の演奏会で10人以上のひたひたな出身者（あるいは在住者）、10人以上のひたひたな以外の茨城県出身者（同）と共演しました。それも既に名声を得た方ではなく、これからどんどん活躍しようという伸び盛りの方ばかりです。地元にもこんなに素晴らしい演奏家がいるということを知つていただきたく、人材発掘に余念がありません。

さて、今年度の第35回定期演奏会は、ひたひたな市在住のクラリネット奏者、坂本沙織さんをソリストとしてお招きしました。ソリストとしてだけでなく、ひたひたな市や水戸

市で音楽講師としても活躍されている方です。演奏会では、彼女の選んだブラームスのクラリネットソナタをオーケストラ用に編曲した作品を演奏し、大変好評でした。

こうした活動を続けていく中で、毎回反省点として上がるのが、お客さんが少ないということです。演奏会ごとに実施しているアンケートでも「こんな素晴らしい演奏なのにお客さんが少ないのはもったいない。」と指摘されます。私たちも広報活動は行つているつもりですが、なかなか浸透しないようです。

そう言った意味では、この文化協会での活動は非常に意味のあるものです。特に2月に開催される「春の祭典」は、加盟団体が一堂に会しての発表の場であるので、今まで触れたことのない分野の芸術を幅広く鑑賞するまたとない機会です。たまたま耳にしたオーケストラの演奏に興味を持つて音楽の世界に入っていく、そんなきっかけにもなるかも知れません。演奏者にとつても他分野の芸術に触れることで刺激にもなります。芸術もからに閉じ籠つていただけでは発展性がありません。広

い視野を持つて接することが大切ではないでしょうか。その春の祭典も11回を迎えました。第1回の頃と比べると、演奏する曲も変わってきました。映画音楽などのポップス系の曲を取り入れることによりオーケストラの演奏に対する関心も高まっているように感じます。私たちもクラシック以外の分野の音楽であつてもオーケストラならではの魅力をお伝えできるよう努力していきたいと思つています。文化協会の活動も20年を迎えました。先細ることなく、この先30年、40年と続けていけるよう協力していきたいと思つています。



第35回定期演奏会の模様

Bトレイン

新しいジャズの世界で

Bトレインジャズオーケストラ

平戸 文子

Bトレインと出会って10年近く経ち、改めて思い出してみると、同じ吹奏楽団と一緒に演奏している川又さん、八鍬さんに紹介してもらって練習に参加したのがきっかけです。

元々中学から吹奏楽のサクソスを続けていてそろそろサクソス吹きとしてジャズもやらないと！という思いからでしたが、思い起こせば昔から特にジャンルを問わず美しいメロディのある音楽が好きだったので、ビッグバンドの和音の重なる動く魅力になんとも言えない感動を覚えたのもあったのだと思います。

いざ始めてみると吹き方やリズムの取り方が全くわからず楽譜を追うのも戸惑いましたが、やっと最近慣れてきた感じがします。

演奏活動は12月の定期演奏会がメインで、そのほかにも色々なイベントがあります。今まで一番印象に残っているのが何と言っても20回の定期演奏会でMALTAさんと共演できたこと。超一流との演奏はとて

も楽しく勉強にもなり夢のような一日でした。

その他たくさんイベントの中でも毎年恒例になっているものもあり、秋は笠間や常陸太田、冬は鶴の岬に行く機会に恵まれ、蕎麦を食べたり温泉に浸かったり1年があつという間に過ぎるのを楽器を吹く事以外にも感じる事ができる楽しみの一つになっています。

まだまだジャズ吹きとは言えませんが、少しづつでも進歩出来たらと思います。



仲野亜紀子さんとの共演

B-Train Jazz Orchestra History

Year	Month	Event	Place
1992	2	社会人Big Bandとして勝田市(現:ひたちなか市)に誕生	
1992	6	バンド名を「B-Train Jazz Orchestra」と命名	
1993	2	1周年記念コンサート	勝田商工会館
1994	2	2周年記念コンサート Guest: Sweet Phraser Orchestra / 正木 香寿美(Vo)	ワークプラザ勝田
1995	1	3周年記念コンサート Guest: 正木 香寿美(Vo)	ひたちなか市文化会館小ホール
1996	1	4周年記念コンサート Guest: Wind Machine Orchestra Guest: Light Heart Sound Orchestra	ひたちなか市文化会館大ホール
1997	2	5周年記念コンサート Guest: 浅田 光子(Pf) / 村上 ゆき(Vo)	ひたちなか市文化会館小ホール
1998	2	6周年記念コンサート Guest: ハレルヤジャズダンス	ひたちなか市文化会館小ホール
1999	6	7周年記念コンサート Part 1	水戸自由が丘スタヂオ
1999	7	7周年記念コンサート Part 2	那珂湊総合福祉会館「しあわせプラザ」
2000	6	8周年記念コンサート	ワークプラザ勝田
2001	7	9周年記念コンサート Guest: 星野 由美子(Vo)	ワークプラザ勝田
2002	6	10周年記念コンサート Guest: MALTA(Sax) / 稲垣 貴庸(Dr)	ひたちなか市文化会館大ホール
2003	11	11周年記念コンサート Guest: The Three Singers(Vocal)	那珂湊総合福祉会館「しあわせプラザ」
2005	6	12&13周年記念コンサート 「The Big Band BT」	ひたちなか市文化会館大ホール
2006	6	14周年記念コンサート B-Train & Marica Guest: 平賀 マリカ(Vo)	那珂湊総合福祉会館「しあわせプラザ」
2007	7	15周年記念コンサート 「Jazz Full Course」	那珂湊総合福祉会館「しあわせプラザ」
2008	12	16周年記念コンサート 「More Jazz More Latin」	東海文化センター
2009	11	17周年記念コンサート 「Bossa & From Screen」	ひたちなか市文化会館大ホール
2010	11	18周年記念コンサート 「J & R」	ひたちなか市文化会館大ホール
2011		東日本大震災のため中止	
2012	6	20周年記念コンサート 「MALTA Again」 Guest: MALTA(Sax) / ジーン重村(Dr)	ひたちなか市文化会館大ホール
2013	11	21周年記念コンサート 「Basie & Ellington」 Guest: 平賀 マリカ(Vo)	ひたちなか市文化会館大ホール
2014	11	22周年記念コンサート 「Jazz & Latin」	ひたちなか市文化会館大ホール
2016	1	23周年記念コンサート 「My Favorite Swings」	大洗文化センター
2016	12	24周年記念コンサート 「Christmas Live」 Guest: 仲野 亜紀子(Vo)	ひたちなか市文化会館大ホール

舞 踊 連 盟

【舞踊連盟10年を顧みる】

〈日本舞踊25周年記念〉

今、「おどり」を想う

舞踊連盟代表 岩井 友紀

今年、舞踊連盟日舞部門は25周年を迎えました。

結成時のことがつい数年前のことのようにおもわれますが、もうそんなに経ってしまったのかと、感慨深いものがあります。

舞踊連盟には、日舞部門と新舞踊（坪内逍遙の始めた新舞踊運動のことであり、本当は、歌舞伎とは独立した作品を創り出す運動を指すものであって、長唄「新曲浦島」、常磐津「お夏狂乱」などがあります）及び歌謡舞踊の部門があり、各々、「分」を知って活動を共にしております。「分を知って」と敢えて書かせて頂きますのは、一般の方は、十把一絡げに「日本舞踊」だとおもっている方が多いからです。

歌謡舞踊専門におしえてあるひとがいるのですから、無理も無いことですが・・・「今」には「今の踊りがある」と主張する人がいます。確かに、歌舞伎もそうであるように、

時代を感じ多少の変化を加えながら、発展して時代、時代に生きていかなければならないとは思いますが、主張の立派さとは裏腹に、やっている事と言えば、歌謡舞踊だったり、日本舞踊の技法など全く無視した「おどり」だったり、やたらに「セリフ」で説明したり、これでは日本舞踊とはほど遠いものと言わざるを得ません。それもその筈、日舞の修業は3年足らずで、家元を自称しているのですから。雨後の竹の子の如く、こうした自称家元が沢山いるのです。勿論、歌謡舞踊指導者でもちゃんとした方がいない訳ではありませんので一言。（※平成17年当時）

〈日本舞踊35周年記念〉

平成27年10月11日（日）市文化会館大ホールに於いて開催致しました。今回は記念公演という事で古典舞踊、子ども教室を含め19番、舞踊まつり18番、古典舞踊については衣装かつら、顔師等を東京の国立劇場等で活躍している裏方さんに依頼し、普段の舞姿とは違う美しく華やかな舞台を展開致しました。

子ども教室の23名も大人達の中に入り一歩も引けを取らずに観客の

方々の盛大なる声援を頂戴しました。未熟な芸ではありましたが多くのご声援を賜り会員一同感謝し最後の幕を下ろす事が出来ました。

〈芸術祭第36回日本舞踊&舞踊まつり〉

舞踊連盟会員 西川 扇俊美

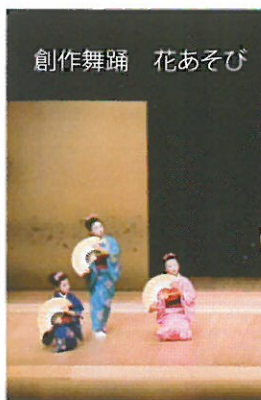
平成28年10月9日（日）市文化会館大ホールにて、古典舞踊19番、舞踊まつり12番、子ども教室4番の公演でした。当日は出足を躊躇するような大雨でしたが開演間近頃から雨脚も弱まり徐々に観客も多くなり賑々しく開幕となりました。子ども教室の出演者の場合何事も本人の強い意志とご家庭の温かい協力なしでは継続出来ません。我が子や孫の晴れ舞台を応援して下さる様子を私達も身が引きしまる思いでした。

日本舞踊は「心」を大事にする伝統芸能の一つです。踊り手は演じる役になり心情がこもった表現をしなければ観客に感動を与える事が出来ません。それには、日頃から相手を敬う気持ちを持ち礼をつくす心が大切です。和の心、静と動の美を表現できるよう尚一層の



長唄新曲 百合の花 ▶

子供舞踊 のんのんお月さん



創作舞踊 花あそび



芸術祭第36回 日本舞踊& 舞踊まつり

研鑽を積み重ねばと考えております。市民の皆様にもっと興味を持って頂けます様会員一同、更なる努力をしてまいります。

洋 舞 踊 協 会

今年の活動報告

洋舞踊協会会長

増田 理恵

1年経つのは、本当に早いものです。会員各団体の発表会、市や県の芸術祭、各種コンクールに参加し、それぞれの持てる力を尽くしてレッスンに励んできました。バレエもジ

ヤズダンスも愛らしい幼児の踊りから、自分の個性を生かして高度なテクニックを必要とする踊りへと成長していきます。美しく豊かな表現を目指してする努力は、心も育てます。もちろん成人してからダンスに出会った人達も熱い思いは同じです。努力が実って、全国つくば洋舞コンクールでも会員は、良い成績を納めま

した。クラシックバレエ高校生部門とシニア部門で1位。モダンダンス中学生部門で2位と3位。その他各部門で上位入賞者多数。喜ばしい限りでした。「市民のための一日ジャズダンススクール」も33回目と回を重ね参加者に楽しんでいただいております。



① 高木文子バレエスクール
「イツツ・ア・スモールワールド」

② スタジオ・マービン
「Cat'S」

③ エリーダンススタジオ
「Sexy Sexy」

④ ハレルヤジャズダンス
「サウンド オブ ミュージック」より
マリアとトラップ一家

⑤ ハレルヤバレエ
「パキータ」

邦楽連盟

三曲(箏・三絃・尺八)を次世代に

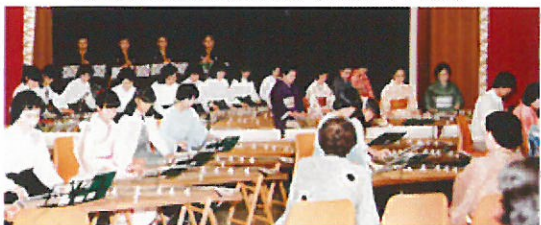
邦楽連盟会長 初見 宗郷

邦楽連盟の発足は、昭和56年。勝田市邦楽・舞踊連盟として発足し、邦楽部門では4社中50名程度からの始まりでした。当初は文化会館がまだなかった時代で、商工会館のホールで「邦楽と日本舞踊」として前半と後半に分け発表しました。当時は、社中の代表者・会員とも若く、古典ばかりでなく常に新しい曲に挑戦する攻めの気構えがあったように思えます。

5回目からは、日本舞踊と発展的解消し、勝田市邦楽連盟として、5社中70名と会員も増え、発表曲数も多くなってきました。また、代表者自身のレベルを上げようと、代表者だ



第1回演奏会記念撮影(1981年11月)



第1回演奏会全体演奏(1981年11月)

けでの曲として、現代曲を選び、切磋琢磨してきました。

その後、那珂湊市との合併により、平成8年に改めてひたちなか市邦楽連盟として活動を始めました。

平成12年には、20回記念演奏として、代表者が入らない階層別演奏を設け、中間層レベルの底上げも図ってまいりました。この当時は会員数も161名と多くなり、更に充実した時代が続ききました。また、平成16年から20年までの5年間で、文化庁の伝統文化子ども教室事業に参加しました。箏・尺八を若い世代に伝え、また触れて鑑賞して、感性の豊かな人間形成の一助にしたいとの目標で教室を開催しました。5年間で、1

40名の生徒が体験し、興味を持っていただけたと自負しています。また併せて、前渡・外野・那珂湊第二小学校などに箏・尺八の体験授業なども積極的に行ってまいりました。そして、平成26年度より、文化庁の伝統文化親子教室を再開することができ、この3年間で、57名が体験しています。今年度で、36周年を迎え、10社中102名の個々のレベルは格段に向上し充実し



第13回演奏会社中代表の演奏(2001年11月)



前渡小での授業(2014年1月)



第36回演奏会親子教室生徒演奏(2016年11月)



第6回子どもフェスティバル参加(2016年1月)

た演奏ができるようになりましたが、若い会員の比率が少ない状態です。若い会員を増やすためには、子供たち向けの伝統文化親子教室を継続するとともに今年度から実施している文化協会主催の『一日体験教室』に毎年積極的に参加していきたいと思っています。更に子供たちに三曲を体験させる邦楽講座を多くの学校に展開するなど次世代の担い手を育成し、発足時の若々しい団体に蘇っていききたいと願っております。

吟詠剣詩舞連盟

芸術祭吟詠剣詩舞大会

吟詠剣詩舞連盟理事長

中野 権郎

【勝田支部第47回大会】

10月16日に文化会館で、勝田支部大会を開催しました。

大会には打越市議会議長はじめ初見文化協会会長の祝辞を賜り厚く感謝申し上げます。

今年度の幼少年の参加は昨年より多く13名の出場であり、大人顔負けの立派な詩吟を発表してくれました。大人の部には約200名の参加があり、独吟・合吟・剣詩舞・構成吟などで会場を賑わせてくれました。特に今は亡き梅原岳禱先生の遺稿集『胸中の詩』の構成吟では30余名の吟者がかかるがわる発表し、師匠の思い出を偲ばせてくれました。

【那珂湊支部第65回大会】

11月3日に第65回の記念大会をホテルニュー白亜紀で開催しました。

今回は那珂湊支部加盟各会派毎に記念大会にふさわしい構成吟を作成して、発表しました。

- *柳声吟詠会 「祝吟を詠う」
- *尚 和会 「吟詠雪月花」



勝田支部 構成吟のフィナーレを飾る出場者の皆さん

*水府新刀流松濤会

「吟詠剣詩舞稽古風景」

*那珂湊考風会

「那珂湊の史跡探訪」

*平磯吼山会

「石童丸」

特に松濤会では幼少年舞者11名が見事な剣詩舞を披露してくれました。



那珂湊支部 剣詩舞に出場の幼少年



勝田支部 合吟コンクールに出場の幼少年

那珂湊市吟詠剣詩舞連盟は昭和36年に、勝田市吟詠剣詩舞連盟は昭和47年にそれぞれ結成されました。市連結成以前は各流各派単位での活動でありました。

ひたちなか市の誕生に伴う吟詠剣詩舞連盟の結成は平成7年9月であります。結成の打ち合せ会議は何度か開催されたようですが両者の歴史的文化的な差異が埋まらず、完全な一本化にはならず、本部・支部体制に決定されたようであります。

吟詠剣詩舞連盟本部



但し、両者の活動は従前通り実施し、大会や研修会などには双方から招待し合い、融和を計りながら現在に至っております。

春の祭典事業については、計画・リハーサル・本番を本部体制の行事として実施しております。

民謡民舞連合会

民謡は心の故郷

会創立46周年

民謡民舞連合会副会長 高橋 和弥

民謡民舞連合会は、昭和46年に勝田市民謡会として20支部260名で発足した。現在19支部330名で創立46年を迎えた。

会長は現在6代目柏倉豊氏に引き継がれている。

平成7年より市名変更に伴いひたちなか市民謡民舞連合会に改名した。会の主な事業は、春祭り大会と秋祭り大会である。春祭り大会は、会員の発表と併せてゲストを迎えての民謡ショーを、また秋祭り大会は市芸術祭参加の会員コンクールを行っている。

ゲストは、第4回大会で津軽三味線の高橋竹山氏を呼んだのを皮切りに、北海道から九州まで全国の有名な民謡歌手を呼び、毎年会員の負担で公演を続け市民にも無料で公開してきた。

またこの間、昭和49年の茨城国体選手団歓迎大会や、昭和60年の筑波万博（勝田の日）の出演、2度の越

中おわら風の盆の盆の研修旅行は今も記憶に残る行事である。

以下連合会の活動を特筆した。

【民謡民舞と伝統芸能の継承】

① 全会員対象の踊、唄、伴奏の研修毎月2回大島コミセンで開催し、平成28年は24回開催した。



市内各コミセンまつり参加 展示とアトラクション

② 会員の稽古場の紹介と活用

市内30数箇所をの稽古場を紹介。

③ 青少年への継承

平磯小学校、磯崎小学校、平磯中学校に講師を派遣し伝統芸能の育成を援助。「子ども伝統文化フェスティバル」の支援。

④ 研修旅行の実施

45周年を記念し、山形花笠祭りに45名で踊りに参加。

【協働社会への対応】

① 音楽の街づくり事業への参加。サウンドシップの参加を通して市のPRや歓迎事業を支援。

② 福祉ボランティア事業

・福祉施設への演芸慰問。
・善意銀行への預託。
本年度は成果を認められ県社会福祉協議会より表彰受賞。



県社会福祉協議会のボランティア団体賞を受賞 平成28年10月28日
受賞記念 市善意銀行預託協力者表彰 平成28年11月28日

芸術祭コンクール結果

市長賞 小室 寿子(芳月会)
第1部優勝 宮崎 久子(谷井会)
第2部優勝 小池 治雄(楽友会)

・ボランティア研修旅行の実施。
年2回市社会福祉協議会の協力で見学旅行を実施。

【本年度の民謡民舞の活動】

① 民謡民舞春祭り大会

ゲストに、郷みん、S・矢島明世氏・谷本恵美子氏を迎えて観賞。

② 芸術祭民謡民舞秋祭り大会

会員のコンクール大会を開催。



第46回民謡民舞まつり 開幕民舞「猿島豊年音頭」

③ 市文化協会春の祭典参加。
④ 第2回芸能フェスティバル開催。

伝統文化連盟

主任企画委員 小林 章男

時流（とき）を生きる

当伝統文化連盟の発足は平成19年度。文化協会では最も歴史の浅い団体です。連盟が目的とするのは、古来伝承されてきた伝統文化を継承することにあり、年1回、市芸術祭への参加事業である伝統芸術文化に関する公演（鑑賞会）を行います。その思いを表現しています。

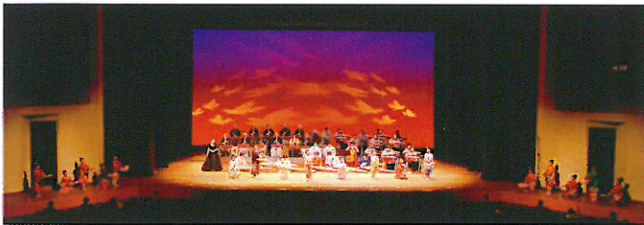
平成28年度も、11月27日にこの鑑賞会を開催しましたが、ご来場の皆様からは概ね温かい、また励ましのお言葉をいただきました。

一曲の演奏に、箏・三味線・尺八・大正箏等のいわゆる伝統和楽器と、演目によっては洋楽器も加え、和洋混然となって演奏します。日本舞踊も同じ舞台で演技をします。このような形態をとっている公演は、おそらく、地域はもちろん、全国でも珍しいのではないかと思います。



ロビーでは毎年呈茶・コーヒーのサービス

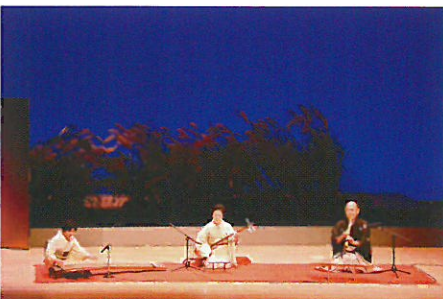
ふじの 伝統芸術文化鑑賞会



2014 日本の歌／思い出のメロディー



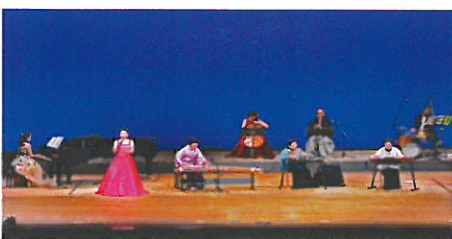
2014 龍笛・筑前琵琶演奏



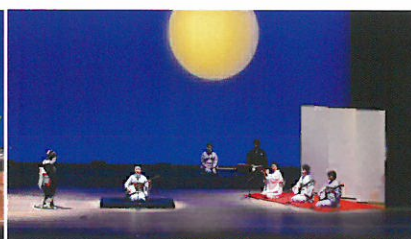
2015 三曲演奏：尾上の松



2015 日本舞踊：雪の降る街を



2016 和洋のハーモニー



2016 水戸二上り／磯節



2016 響き合うもの：陰陽師

私たちが公演に当たって何よりも神経を使うのは、今、という時代のなかでいかにしてお客様に楽しんでいただける舞台とすることです。選曲、ゲストの委嘱、斬新でキメ細かな演出。もちろん、演奏・演技は「プロ意識で演ずる」ことを合言葉に、思いのこもった練習を重ねます。出演者たちは普段はそれぞれの分野で活動していて、「伝統」が近づくただ一点に集中します。発足後10年が経ちましたが、伝統芸の継承を使命とすることに変わりはありません。

一方、世の中の変化は速く、ややもすれば時流に乗り遅れる懸念にさらされます。時流に乗って世の変遷を肌で感じながら、必要に応じて新しいものを取り入れ、その反照で古来のものの良さを皆様に鑑賞していただく。そんな近未来を想定しています。お客様あつての「伝統」であり、私たちはお客様に育てられてきました。時流（とき）を生きる。これが伝統芸の継承を使命とする、私たちのモットーです。

華道連合会

華道連合会の思い出

理事 雨宮 珠草

華道連合会の思い出

華道連合会会長

杉山 豊和

私のいけばな展初出品は昭和38年でした。旧中学校を会場として4流派が参加、数年後に那珂湊華道連盟を結成しました。昭和28年に設立された那珂湊町文化連盟は、平成4年那珂湊市文化協会に改称して、各分野の方々と体育館を使用し文化祭として開催されるようになりました。

その後ひたちなかが市が誕生して文化協会も統合されました。私も統合委員として参加しました。旧二市の委員が、各自の率直な意見を出して熟慮熟議の結果、ついに満場一致で握手。めでたくひたちなか市文化協会が誕生しました。私にとつて故郷の一大転換時に遭遇したことは、一生の大切な思い出となりました。

華道連合会は、その後現在の形のいけばな展を毎年開催し、いけばなの心を十分体得している会員同志、百年の友のごとく、なごやかな美しい会になっております。これは前会長・現会長のこまやかな配慮のためのものであると思います。いずれ素晴らしい思い出として私の宝物になることでしょう。

勝田地区は、那珂湊地区からだいぶおかれて昭和61年6月、春日泉会館にて100名程での発会でした。

長初代 有路衣湖(吉原松ノ巻 61〜71年)
2代 清水碧水(小原流 71〜75年)
3代 大和田清月(池坊 75〜77年)

勝田と那珂湊が合併、ひたちなか

市華道連合会が誕生し、会員も360名程になりました。

平成5年 研修会
東武ワールドスクウェアにて



10周年はワークプラザ勝田に於いていけばな展、祝賀会が開催され、これまで別々に展示してまいりましたいけばな展も、これを期に文化会館で合同展示するようになりました。



華道連合会 10周年祝賀会
左から 雨宮副会長・大和田会長・山崎副会長

昨年は創立20周年を迎え、ホテルクリスタルパレスに於いて、市長はじめ、ご来賓をお迎えし、盛大に記念式典を開催することが出来ました。今年はいけばな展は、まだ暑い9月18、19日に開かれ(6流派・160名の作品)華やかさの中に力強い作品、伝統ある作品が展示されました。子どもの作品も9年目を迎え、作品の前で家族揃って記念撮影をし

ている姿を拝見し、幸せを感じるひとときです。会員一同益々精進してまいりたいと思っております。



平成28年 いけばな展出品者

茶道連合会

茶道連合会20年のあゆみ

茶道連合会会長 高野 新一

勝田市・那珂湊市の合併後、勝田地区茶道連合会の西野博視（宗博）さん、三ツ石匡子（宗匡）さん、私達と那珂湊地区茶道連盟の蔵野多喜子（宗喜）さん、関山三枝子（宗枝）さん達を中心に協議を行い、ひたちなか市茶道連合会として、規約を策定し、初代会長西野博視さんの元、基礎を作り上げ発展してきました。

その後会報「白亜紀」が創刊され創刊号「お茶の心を求めて、信じあい、支え合いながら」を西野会長2代目会長関山三枝子さんが2号「一期一会に一服のお茶を皆様」3号「平成16年度活動状況報告」4号「茶道連合会活動状況報告」5号「活動状況について」関山さんの後を継ぎ、萩原しるゑ（宗恵）さんが3代目会長として6号「今茶道を学ぶものとして」7号「芸術祭を終えて…茶道へのお誘い…」を寄稿しました。萩原会長は情熱家で活動的な人であり、長く続けていただけるものと思っていました。

病により辞退されたのは残念でなりません。

その後を受け継いでいるのが、4代目会長高野新一（宗新）で、8号「茶道連合会の歴史と今」9号「茶道連合会の今」10号「茶道連合会活動について」11号「茶道連合会の一年」12号「千利休と連合会」13号「芸術祭茶道連合会について」14号「研修会永青文庫にて」そして今号15号になります。

研修会は、戸栗美術館「古伊万里染付の美展」において、古伊万里創始期から100年元禄年間までの秀品を数多く見聞し、会員のより一層の感性を高めてきました。主な生産品として、オランダ東インド会社による貿易品及び献上手古伊万里（禁裏御用品・將軍家・諸大名・公家・神社仏閣等の）装飾品及び調度品があります。

連合茶会は、11月6日（日）表千家・裏千家それぞれ趣向を凝らし、270名余りの出席をいただきました。いに盛り上がった茶会になりました。今後、会員皆で切磋琢磨して、発展させていきたいと思っております。



平成22年度「春の祭典」楽屋にて



平成8年度茶会にて

今年度の芸術祭 — 連合茶会 —



表千家



裏千家

俳句連盟

「むつみ」と共に歩んで

俳句連盟会長 大野 ひろし

俳句連盟は昭和49年4月に勝田俳句連盟として発足しました。その後、平成6年の勝田市と那珂湊市の合併に伴ってひたちなか市俳句連盟と改称しました。

発足当時の会員は20名前後で、作品発表の場となる機関紙「むつみ」は12、3頁のようでした。以来隔月発行で現在までに243号となっています。この間、一度の停滞もなく発行を続けられたのも、歴代会長と編集長を始めとする諸先輩のご尽力があったからこそと感謝しております。

当連盟は俳句愛好者の集まりです。会員同士の親睦を深め、俳句を通して地域の文化の向上に少しでも役に立つよう活動している団体です。機関紙「むつみ」の発行は当連盟の大きな特徴となっています。

また、毎年市芸術祭参加俳句大会を開催しております。この大会は今年で41回を数え、文化協会の創立20年を超える歴史を刻んでいます。この

大会へ寄せられる句や、当日の出席者も年々増えて、今では県内でも有数の大会となっております。日頃の活動としましては、毎月の例会句会をはじめとして、地域のコミュニティセンター（大島・一中・津田・佐野）4か所それぞれ日を違えて句会を行っております。また、季節により秋には吟行会、そして忘年句会・新年句会とさまざまな活動を通して会員の俳句の向上に努めています。

歴代の機関紙「むつみ」



これらの活動が成果となって、茨城県芸術祭参加俳句大会を始めとする各俳句大会において、毎年沢山の入賞者を輩出しております。文化協会20周年にあたりまして、当連盟の40周年を振り返ってみます。当連盟の40周年を振り返ってみます。いろいろな事がありました。私が加盟した20数年間の内でも、特に印象に残っているのは平成21年に行われた「むつみ」200号発刊記念式典でした。ホテルクリスタレパレスに於いて、本間源基市長を始めとする沢山の来賓を迎えての式典は、

次の250号に向けての一大イベントとなりました。その250号もすぐ目前になっています。また、一時の俳句ブームの時は会員も120名を超えていました。加えて高齢化社会の中で、定年後の趣味として俳句をという人も出てきました。しかし、どこの団体でも同じようですが、会員の高齢化は避けて通れませんが、当俳句連盟も御多分に漏れず毎年亡くなったり、句が作れなくなったりと会員の減少が続いています。でも、そのような中でも少しずつではありますが、

会員になる方も生まれてきています。文化協会の文芸部門には嘗て3つの団体が加盟していましたが、今は当俳句連盟だけになってしまいました。文芸部門の灯を消さないようこれからも頑張っていくつもりです。俳句は筆記用具さえあればいつでもどこでも出来ます。四季の豊かな日本、俳句を始めると季節の移ろいに敏感になります。そして、日本語の美しさは日本の文化です。これがある限り俳句は廃れないでしょう。



今年の芸術祭参加俳句大会

囲碁連盟 20年の歩み

囲碁連盟会長 藤谷 十一

囲碁は伝統的な日本の文化です。

囲碁は対局相手がいて2人で勝負をするもので、プロ、アマを問わず相手に勝つために日ごろから実力向上のための研鑽に努めています。対局も楽しいがこの研鑽に勤しむのも囲碁の楽しいところです。

現在の囲碁連盟は合併前にあった勝田市の天元会と那珂湊市の湊棋道会が、合併を機に一つの連盟となつて活動を続けているものです。

囲碁連盟の行事として、対外的には県北市町村親善囲碁大会が毎年行われています。また、那須塩原市（合併前の黒磯市から）とは姉妹都市親善囲碁大会を毎年行っていて平成28年度には第15回大会を行いました。そのほか常陸太田市とも平成17年から10年間親善囲碁大会を行いました。

囲碁連盟の最大の行事は、ひたちなか市民囲碁大会です。これは、過去の大会参加者をすべてデータベリタス化して次の大会の参加者募集に活用する方法をとって、近年は毎年

150人規模で行う地方都市として

では珍しく大規模な大会となっています。この市民大会には、日立市や常陸太田市からも参加してもらっていて、お互いに囲碁の親善・友好に努めています。

囲碁連盟の会員は現在約110名います。

日常の研鑽活動としては、囲碁クラブや水曜会に集まって対局しています。県代表クラスの実力者も通っていて、ほかの会員のレベルアップに貢献しています。低段者も高齢ながら実力アップを目指して熱心に通っています。定例大会のほかミニ大会をよくやっていて、勝敗によって持ち点が加減するという方式をとっているため、会員は皆真剣です。また、会員は囲碁仲間として長年付き



市民囲碁大会

合っているので、真剣さの中にも冗談を言い合いながらも和気あいあいとした時間を過ごしています。

市民大会や定例大会のあとには、囲碁クラブの対局場を宴会場にしながら懇親会をします。これは、全国的にほかの囲碁クラブではしていないよい集まりでしょう。筆者が若いときから行ったことがある全国の囲碁クラブでは、昼間の対局だけして、そのあと集まって懇親会をする処はありませんでした。

1年に2回程度の宿泊研修も行っています。なるべく近くの保養地を選んで多く対局できるように計画しています。

ただ、ほかの団体とも同じように高齢化の問題があります。たとえば姉妹都市親善囲碁大会を那須塩原市と毎年交互に場所を変えながら行っています。両市の距離が遠いので、車の運転に疲れるなどもそのひとつです。体調不良で参加できなくなることも年々増えています。また、ひたちなか市近郊の都市で行う対外試合も高齢による参加辞退者が多くなっています。囲碁は身体を動かすスポーツほどではありませんが、精神

面での衰えが影響してきます。若い愛好者が増えればよいのですが、囲碁連盟には若い会員が増えないのが課題になっています。

囲碁界として、普及に努めることはおおきな課題で、囲碁連盟としてもそれは同じです。

普及の機会がなかなか無いなかで、昨年1月に茨城県高等学校囲碁連盟の要請で、水戸一高で行われた「高校生のための囲碁特別教室」に指導碁を打ちに行ったのはよい経験でした。連盟からは7名の有段者が参加しました。この行事は、小学生と中学生も参加するもので若年層に囲碁を普及するよい催しになっています。囲碁連盟としては全面的に協力していく考えで参加しました。

囲碁は頭脳をつかう良い趣味だといわれています。囲碁をすることで脳を活性化し、老化防止に役立つという筈です。でも会員は、日ごろは老化防止のことはあまり考えずに打っています。囲碁には人生の様々な教訓があるといわれているし、その奥深さに魅力があるので、会員はそれに惹かれて何十年も囲碁を続けているのでしよう。

ひたちなか市文化協会組織図

分野	団体名	代表者	電話番号
美術	美術協会 書道連盟 陶芸協会 写真家協会	三好義章 長山素龍 大野八洲 平野伸男	029-262-2428 029-272-7865 029-274-2069 029-272-2555
音楽	合唱連盟 市民吹奏楽団 市民オーケストラ Bトレイン	榎川和浄 又田眞勇 櫛原	029-285-6085 029-285-0007 029-285-5143 029-276-2610
舞踊	舞踊連盟 洋舞踊協会	岩井友紀 増田理恵	029-273-6812 029-272-6423
伝統芸能	邦楽連盟 吟詠剣詩舞連盟 民謡民舞連合会 伝統文化連盟	初見宗郷 中野権郎 柏倉豊 鈴木誉志男	029-273-9144 029-285-0675 029-274-2179 029-274-1152
華道・茶道	華道連合会 茶道連合会	杉山豊和 高野新一	029-272-9392 029-272-0659
文学	俳句連盟	大野ひろし	029-263-6477
棋道	囲碁連盟	藤谷十一	029-273-2546

編集後記



今年度は何かの縁があり、市文化協会創立20周年の節目に発行される「白亜紀」の編集委員長という大役を仰せつかることになりました。

今回の会報は、各団体の活動報告の他に、20周年の思い出や歩みなどが掲載されており、「20周年記念特別号」に相応しい内容となっておりです。

この会報を読んでいただければ、「文化協会のあゆみ」や、「各団体の活動内容」などをより一層知ることができるとおもいます。

また、2月12日(日)の「春の祭典」も各団体のご協力のおかげで、つつがなく終了する事ができました。

最後になりますが、事務局をは

じめ、各団体のご協力によりまして、「20周年記念特別号」を刊行できましたこと編集員一同感謝申し上げます。

編集委員長

編集委員

委員長 宮内 慶樹

是枝 和香

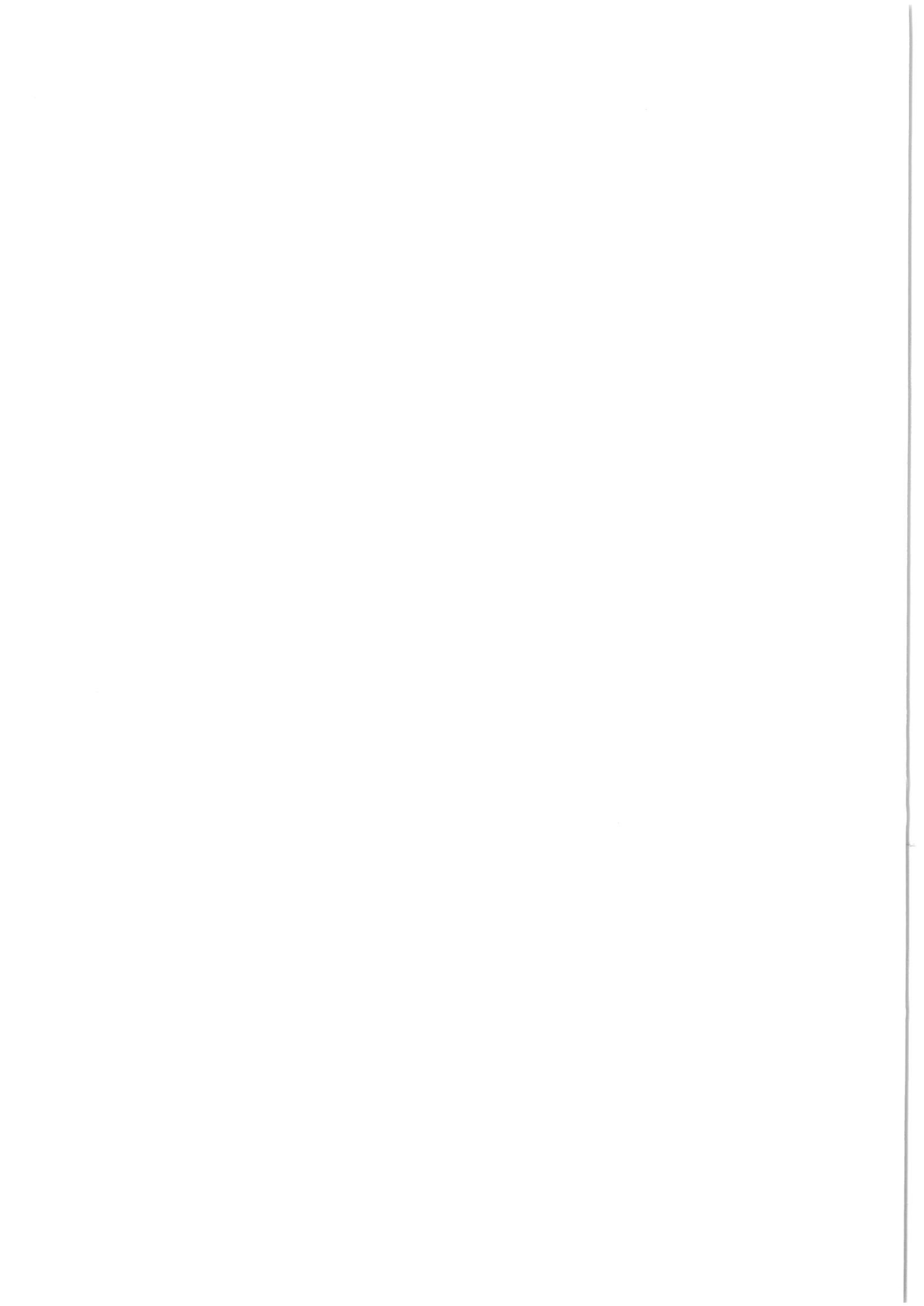
鈴木 隆

鎌田 真理子

藤谷 十一

事務局

芸術文化振興室
木田 伸子



会報
発行日
発行者
事務局

白 亜 紀

平成29年3月31日

ひたちなか市文化協会

ひたちなか市市民生活部生涯学習課
芸術文化振興室（生涯学習センター内）

TEL 029-272-6301

FAX 029-272-9297